

共生・協働の 地域社会づくり

かわうち
川内集落

TEL&FAX 0997 (69) 5108

地域の宝を活用して、交流人口増加による集落の活性化を目指します

奄美市住用町の山間部に位置する川内集落は、人口157人、世帯数79戸(平成25年1月現在)の農業を中心とした集落で、地元にある「フナンギョの滝」などの地域資源を生かしたイベントや、集落独自の踊り「スティルクテン」などの伝統芸能の伝承活動を行っています。

「少子高齢化や若者の流出などにより集落の人口は減少傾向にあり、さらに国道から離れた集落であるため交流人口も少ないことから、何とかして集落を元気づけたいという思いがありました」と語るのは、平成14年から川内集落区長を務める山田紘一さん。平成16年には、地元の桜を活用した「桜並木周辺のウォーキング」を集落の自主イベントとして開催しました。

市町村合併により奄美市となり、平成19年にはそれまでごく一部の人のしか知られていなかった「フナンギョの滝」が、奄美市一

集落1ブランドに認定されたのをきっかけに、「桜並木&フナンギョの



老若男女が自然に親しむ「桜並木&フナンギョの滝ウォーキング大会」

滝ウォーキング大会」を毎年2月に開催しています。平成25年2月の大会では、県内外から約400人の方が参加されました。

「ウォーキング大会をはじめた頃は実施に否定的な意見もありましたが、交流人口が増えることにより、イベント時の地産野菜販売による農家の収益向上や集落民の環境美化の意識が高まったことなどから、次第にイベントに対する理解が得られるようになりました」と語る山田さん。イベントの際は、老人クラブが案内役を、婦人会が参加者に豚汁やおにぎりの振る舞いを、子供会が空き缶拾いやラジオ体操を、青壮年団が駐車場誘導を行うなど、集落を挙げて取り組んでいます。

また平成23年8月には、「川内」という同じ地名の縁で、東日本大震災で被災した福島県双葉郡川内村の小中学生24人と、平成22年の奄美豪雨災害で被災した東城小中学生の子供たちとの交流など、他の地域との交流活動も実施しました。



豊年祈願と厄除けを目的とした伝統芸能の踊り「スティルクテン」



奄美市一集落1ブランドに認定された「フナンギョの滝」
「船木(船用の材木)を切りに行くところ」から「船行(フナンギョ)」と名が付けられたといわれている。



川内集落区長の山田紘一さん
「小異を捨てて大同に就く」の精神で、集落一丸となって地域活性化のために頑張っていきます。

こうした集落内の老人クラブ、婦人会、子供会、青壮年団などの連携によるコミュニケーションづくりの取り組みが評価され、平成24年2月には県コミュニティづくり推進大会の奨励賞を受賞しました。
今年12月に奄美本土復帰60周年、来年2月にはウォーキング大会開催10周年を迎えるため、ウォーキング大会に組み込む新たな企画も検討しているとのこと。地域の宝を生かし、交流人口増加による集落の活性化を目指している「川内集落」に、皆さんも足を運んでみてはいかがでしょうか。

共生・協働の地域社会づくりや
NPO法人に関するお問い合わせ先

◎共生・協働推進課(県庁9階) TEL 099(286)2241
◎共生・協働センター(かごしま県民交流センター内) TEL 099(221)6613
関連情報は、県ホームページの「共生・協働(NPO・ボランティア)」にも掲載しています。